

新年の抱負



魅力あるスポーツ観光へ

NPO 洞爺にぎわいネットワーク
理事長 福井政吉さん

NPO洞爺にぎわいネットワークは、サッカー、野球などスポーツを通じて、町づくりの一端を担ってきました。

特に昨年は、西アフリカのブルキナファソからの日本のプロを目指す野球留学生を受け入れ、町民との交流事業を行いました。今年は、ブルキナファソを含む



西アフリカ選抜チームが来町し、日本ハムOBとの親善試合などが予定されています。

今年も、この他北海道コンサドーレとの連携事業など、スポーツを通じて新たな洞爺湖町の魅力を発信していきたいと考えています。

力士にチャレンジ

洞爺高校3年 伊藤悠希くん

高校卒業後、大相撲の八角部屋に入門し、力士としての道を歩む選択をしました。

2年生の時、柔道の全道高校総体でスカウトされ、昨年5月に夏場所や八角部屋を見学し、角界に入ることを決めました。

将来は、調理師の専門学校への進学を考えていましたが、場所を見に行き、千秋楽の雰囲気感動し、若い時にチャレンジするのも良いかなと思い決断しました。

今は不安なところもありますが、期待の方が大きいです。

最後の洞爺高校生として、校名に恥じないよう頑張ります。



開湯100年を迎え更なる飛躍の年へ

洞爺湖温泉観光協会会長 大西英生さん

今年は、洞爺湖温泉に初めての温泉宿竜湖館が開業して100年目となります。

東日本大震災で減少した宿泊客も、アジア圏を中心に順調に伸び、年間65万人を超えるところまでできました。さらに飛躍していくためにも、サービスを徹底し、洞爺湖温泉のブランド化を築きあげていかなければなりません。

開湯100年を迎えて、改めて先人の皆さんの努力に感謝し、思いを引き継ぎながら、支えてくださった地域住民の方へも還元していきたいと考えています。この1年が飛躍の年となるように期待したい。



地域活性化の一役に

洞爺湖芸術館館長 三島邦代さん

洞爺湖芸術館は、昨年、開館以来最多の3,832人の入館者がありました。

企画展の成功や芸術館の名前が少しずつ浸透してきたことによるのではと考えています。

今年は、町民の皆さんに芸術館をもっと知ってもらい、町内の各施設などとも連携して、地域の皆さんに愛される芸術館としての地歩を固めていければと思います。

来年は、ビエンナーレが休止して10年、再来年は開館10周年と節目の年が続きます。

大きな節目にふさわしいイベントを企画し、準備を始めたいと考えています。

